

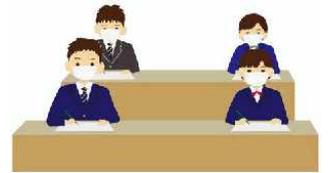
学校の授業のない日は「1日4教科12時間主義」で、
学校の授業のある日は「1日4教科8時間主義」で第1志望校合格を！

開倫塾

塾長 林明夫

Q 「1日4教科12時間主義」とは何ですか。

A (1)私の弟で弁護士の林俊夫(ペンネーム森圭司)が、1999年ころ司法試験受験予備校で司法試験受験生にアドバイスした合格必勝法です。



(2)1999年ころの司法試験は、約3万名の受験生のうち約1000名が合格という倍率約33倍の試験でした。そこで、最低1年間以上、「1日4教科12時間」集中的に机に向かうようアドバイスをしていたようです。



(3)午前「憲法と訴訟法または商法」を、午後時間のかかる「民法」を、夜は「刑法」を、各々4時間ずつ学び、1日12時間、各教科を集中的に学習し、合格を果たすことをアドバイス。この教えを参考に、合格した人もかなりいたと伝え聞きます。

Q 20年以上前の倍率30倍以上の司法試験の「1日4教科12時間主義」のどこが、開倫塾の塾生の参考になるのですか。

A (1)高校入試、大学入試の受験生の多くは、入試前は1日12時間くらい毎日机に向かっています。



(2)1日12時間勉強すればするほど、「これはこういうことだったのか」「そうか、そうなのか」と各教科の内容が少しずつわかってきます。「理解」がすすめばすすむほど、受験直前であっても勉強がおもしろくなり、知らず知らずのうちに1日中机に向かい、受験の当日を迎える人が毎年数多くいます。

(3)1999年当時の倍率30倍以上の司法試験とは異なり、「1日4教科12時間」の勉強を1年間以上し続けなければならない試験は、医学部などを除き、ごく少ないと思われます。私がおすすめしたいのは、今からでも「1日4教科12時間」を参考に、机に向かう時間の長さを増やしたらどうかということです。



Q 具体的にはどういうことですか。

A (1)「1日4教科12時間」勉強したとしても、ふだんからあまり勉強していないと、入試直前の1～2か月間では、各教科の学習範囲が多すぎて、勉強をし終えない。間に合わない。まして、1～3週間ではとうてい勉強し終えないことがあります。



(2)そこで、もうそろそろ腰を落ち着けて本格的に勉強しなければまずいと感じたときからでOKですから、「1日4教科12時間主義」を参考に、机に向かう時間を増やすことをおすすめします。

(3)そうはいつでも、急に「1日4教科12時間」の本格的な受験勉強をすることは、身体が慣れていないため大変だと思います。そこで、とりあえずは、午前30分学習を2～3回、午後30分学習を2～3回、夜30分学習を2～3回ずつ繰り返し、学習することに慣れることをおすすめします。受験勉強で一番大切なのは、長時間もくもくとひたすら「黙学(もくがく)」する「学習習慣」です。少しずつでOKですから、あせらず1回30分ずつ机に向かってくださいね。



Q 「1日4教科12時間」といいますが、どのような教科を「1日4教科12時間主義」の時間配分でやればよいのですか。

A (1)学校の授業のない日こそ、絶好のチャンスです。

(2)例えば、午前中は「国語と理科または社会」を合計4時間正午まで学習。午後は「数学」を6時まで学習。夜は「英語」を12時まで学習。

(3)これは「高校入試」でも「大学入試」でも「大学院入試」でも全く同じです。「私立中入試」「公立中高一貫校入試」でも同じです。「定期試験対策」や「3大検定」、「国家試験」でも同じです。



Q 学校の授業のある日はどうしたらよいのですか。

A (1)「1日4教科8時間主義」、つまり、早朝や、学校から帰宅した後、夜眠るまで、合計8時間勉強することをおすすめします。

(2)緊急事態宣言が解除されても、学校行事や部活動は大幅に縮小、帰宅時間が当分は早まります。工夫すれば1日8時間学習は可能です。通学時間や、学校の空き時間も、工夫すれば勉強はできます。

(3)①ただし、学校の授業中は、全教科真剣勝負で全精力を傾けて授業に集中。学習内容をすべてその場で「理解」し、できれば「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」なども「授業中」に全部済ませ、スミからスミまで「定着」させましょう。

②授業が開始される直前まで、今学んでいる教科書を1ページ目からどんどん「黙読(もくどく)」。授業中に、全部、正確に身に着けましょう。受験教科以外の教科も、手を抜かず授業に全力集中すると、受験の基礎となる「読解力」や「一般教養」が身に着きます。学校の勉強はすべて積み重ねなので、進学した上級学校での勉強にすべて役立ち



ます。

③中学・高校での全教科の学習内容が身に着いていなければ、大学での教育・研究には耐えられません。高校生こそ全教科まんべんなくスミからスミまで「理解」「定着」に励み、大学進学後に備えることが大切です。大学入試の出題教科しか勉強しない場合には、大学入学後、もう一度学び直すことが求められます。高校レベルの知識が身に着いていないと、難関大学ほど、入学はできても、進級や卒業はできません。



Q 最後一言どうぞ。

A (1)何のために学ぶのか、高校や大学を卒業して何をするのか、社会のために自分は何をするのかなど、受験生は自分の人生を真剣に考えてください。



(2)受験生ほど新聞をよく読み、読書をし、特に古典や伝記を読み、世の中のことを知り、自分の生き方を考えましょう。

(3)受験で大切なのは「高い志(こころざし)」、「志」をもって受験勉強に励むことです。「志」が高ければ高いほど「受験生としての自覚」が深まります。勉強はすればするほど、その内容がよくわかってきますので、勉強が楽しくなり、「1日4教科12時間主義」の受験勉強も、全く苦にならなくなります。もっともっと時間をかけて学びたくくなります。

*勉強するのに遠慮は一切不要です。せっかく与えられた受験の機会です。思い切って好きなだけ机に向かってくださいね。

2021年9月22(水)

